

1 単元名 バスケットボール

2 運動の特性

(1) 一般的特性

2つのチームが入り交じり、パスやドリブルを使って攻めたり、味方と協力して相手の攻撃を防いだりしながら、ゴールにシュートして得点を競い合うことが楽しい運動である。

(2) 子どもから見た特性

～省略～

【考察】

A「知識及び技能」について

本学級は、社会体育クラブのキャプテンをするなどバスケットボール経験のある子どもが2名いる。一方でバスケットボールをしたことのない子どもが多く、技能の差は大きい。

これまでバスケットボールの学習に取り組んでおらず、ルールや基礎的なボールの扱い、ボールの硬さ・重さに不安をもっていることが分かった。また、5年時にゴール型の学習を行っていないため、ボール操作のポイントや動き方などを理解していない子どもも多い。実態調査では思ったところにボールを投げられなかったり、シュートがゴールに届かなかったりした子どももいた。試しのゲームでは、投げられる距離が短いので仲間同士の距離感が近くなったり、動きながらボールをもらう動きや走る人の先にボールを出す動きが一部の子どもにしか見られなかったりして、試合によって展開スピードに大きな差があった。どこに動けばボールをもらうことができるのか分からず、目でボールを追うだけの子どもも数名いた。このような実態に対して、みんなが楽しめるゲームを行いながらよい動きを知り、身に付けていけるような手立てを考えていきたい。

B「思考力、判断力、表現力等」について

子どもたちはめあてに対して努力する大切さは分かっているが、めあて学習の経験が少なく、学び方が身に付いていない。自分の課題を見つけられると答えた子どもは90%に及ぶが、学習を見る限りでは、漠然とした課題設定をしている子どもが多い。自分の課題を見つけられないと答えた子どもは3名いるが、その理由として、「どのような動きがよい動きなのか分からない」「見ていないので自分がどう動いているのかわからない」と答えている。よい動きを指導すると共に課題を選択できるような手立てを講じていきたい。

また、チーム内で簡単な作戦を立ててゲームを楽しむというボール運動の楽しさも味わえる学習にしていきたい。そこで、子どもから出てきた動き方や攻め方、指導者が意図的に声をかけて浸透した言葉などを掲示物にまとめることで、よい動きや攻め方を共有したり、確認したりできるようにする手立てを講じていく。そうすることで、試合をしながら状況判断をして声をかけ合う姿や、試合を見ている子どもがアドバイスをする姿が見られるバスケットボールの学習を目指したい。

C「学びに向かう力、人間性等」について

本学級は体育の学習を好む子どもが多い一方で、「体を動かすことが嫌い」「失敗すると嫌な気持ちになる」「ルールを守らない子がいるからつまらない」と答えた子どもが4名いる。普段の休み時間の過ごし方を見ると、絵を描くなど室内で過ごすことを好む子どもも多くいる。

質問⑦から、意欲低下の原因として、「ルール守れずケンカになってしまわないか」、「チームの仲間と仲良く活動ができるか」、「チームに役立つ存在になれるか」を心配している子どもが多くいることが分かった。しかし、「ルールを守って行いたい」「しっかりアドバイスを聞く」などみんなで高め合って楽しく活動したいという思いをもつ子どもも多く、子どもたちの9割がバスケットボールの学習が楽しみであると答えている。本単元では、友達を認め、支え合う大切さを体験的に知る大きなチャンスと捉えている。友達のよい動きを認めたり、アドバイスをし合ったりすることで他者と認め合い、励まし合う楽しさを味わわせていきたい。

3 研究の視点と学習の手立て

(1) 研究主題 <小学校体育部研究主題>

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点と学習の手立て

視点1 子どもの実態を的確に把握するとともに、運動の特性と指導内容を明確にした上で学習過程や学習活動を工夫しねらいを明らかにすることで主体的に子どもたちが学習意欲や課題をもって取り組めるようにする。

①運動の特性と子どもの実態から指導内容を明確にした学習過程

バスケットボールの特性

- 集団対集団の攻防によって競争する楽しさや喜び
- ボール操作とボールを持たないときの動きによって2つのチームが入り交じってゲームを行う楽しさ
- 自己やチームの課題を見付け、その解決のための活動を工夫する楽しさ
- ルールを守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認め合ったりする楽しさ

子どもの実態・願い

- ボール運動の経験が少ない
- 基本的な技能や行い方が未定着
- ボールの硬さへの不安、怪我の心配
- 得点を取ってチームに貢献したい
- 友達と仲良く試合をしたい
- 個別の支援が必要な子どもが多い

身に付けさせたい力

- 試合で使うことのできる基本的な技能
- 得点につながったよい動きや攻め方に気付き、伝える思考力、判断力、表現力
- 約束を守り、協力して試合を行う楽しさ
- 個人の取組やチームの作戦を考え、課題解決に粘り強く取り組む態度、意欲

学習過程の意図

つながる運動・・・基本的な技能につながるボール操作と基本の動きを身に付ける。

- 攻め方（ボールをもらう動き、相手が動いた先にパスを出す、山なりのシュート）
- 状況判断（ドリブルかパスか判断してシュートにつなげる動き）

ねらい①・・・試合やボールに対して苦手意識のある子どもの意欲化を図る。

- 少人数での試合（3対3）を行うことで、全員がボールに触れ、シュートを決める楽しさやチームに貢献する喜びを味わえるようにする。
- オフェンスマンルールを採用し、数的優位を作ること得点のチャンスがおとずれるようにする。
- 傾斜得点ルールにより、チームみんなが得点を取った方がよいと思えるようにする。
- やわらかいボールも使って試合をすることで、ボールへの不安を取りのぞく。

ねらい②・・・簡単な作戦を選んでゲームを行い、運動の楽しみ方を広げる。

- チームの特徴を捉え、ねらい①で気付いた攻め方からチームに合った簡単な作戦を選んでいく。
- チームの強さに合わせて、ボールの選択や傾斜得点の変更を認めていく。

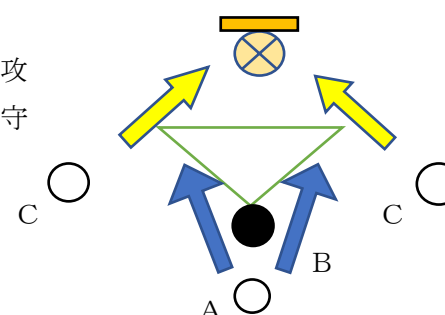
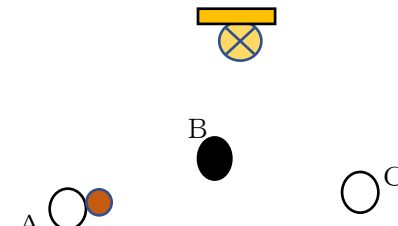
振り返り（まとめ）・・・知識・技能を次に生かすことで意欲化を図る。

- ゴールにつながるよい動きや声かけについて共有し、次時に生かせるようにする。

	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
0	オリエンテーション	つながる運動 基本的な知識・技能の習得につながる運動					
		ねらい① 簡単なルールで試合を楽しむ (総当たり戦)			ねらい② チームに合った簡単な作戦を 選んで試合を楽しむ (対抗戦)		
4 5		振り返り					まとめ

②基本的な知識・技能を習得できるつながる運動

ボール運動やゴール型の運動の経験が少ない実態から、本単元では攻めにつながる技能を身に付けることを中心にしていきたいと考えた。つながる運動のねらいや活動内容は以下の通りである。

	①ラン&シュート	② 2対1
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○得点しやすい場所 (床の目印) に移動し、パスを受ける。 ○ゴール (ボードの目印) に向けて、ふわりとした山なりのシュートをする。 ○相手の取りやすい場所にパス (バウンドパス) をする。 ☆床に目印を付け、スムーズにシュートにつながる位置やパスの出し方・もらい方について確認しながら行う。 ☆は重点指導項目 	<ul style="list-style-type: none"> ○近くにいるフリーの味方にパスを出す。 ○相手に捕られない位置でドリブルをする。 ○ボール保持者と自己の間に守備が入らるように移動する。 ○ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をする。 ○数的優位の場面でドリブル、パス、シュートの状況判断をする。 ☆数的有利を利用して、シュートまでに時間をかけずに攻める。
内容	<p>A Cの前のスペースにパスを出す。 B Aの方を向き、手を広げて守る (パスカットはしない) C シュートが打てる位置に走り込み、パスをもらって、シュートする。</p> <p>○ は攻 ● は守</p>  <p>A→B→Cをくり返す。</p>	<p>○床の目印に立つ</p> <p>A ハーフラインの前からスタートする。 B ①Aの守備をしてAに近づく。 ②Cの守備をしてAから離れる。 A B①の場合…Cにパスする。 B②の場合…ドリブル・シュートする。 C 間にBがないように移動し、パスが来たらシュートする。</p> 

視点2 一人一人のよさを伸ばし、かかわりを通して運動の特性に触れる楽しさを実感する手立てを工夫する。

(1) 誰もが運動の楽しさや喜びを味わうことのできるルール

①少人数のゲーム

試しのゲームで、3対3で試合を行っているときがどの子どももボールに触れ、攻めや守りでの一人一人の必要性が増していた。動けるスペースが広がるので運動量も増えていた。空いているスペースを見つけ、動いてボールを受ける経験を重ねることで、ボールを持たないときの動きを身に付け、数多くシュートを打ち、どの子どもも得点する喜びを味わえるようにしていきたい。

②オフenseマンルール

守備に戻れないオフenseマンをつくることで、攻める際に3対2の数的優位が生まれるようにした。また、オフenseマンがいることで速攻の動きが生まれ、攻守の入れ替わりがスピーディーな展開をできるようにしていきたい。

③ボールの選択

バスケットボールの重さや硬さについて扱いづらさを感じたり、けがに対する不安を答えたりして、体育学習に意欲的ではない子供がいた。そこで通常のバスケットボールより軽く、柔らかくて扱いやすいスマイルボール（ミカサ・4号）も使用していく。ただし、中学校の体育学習との接続も考慮し、通常のバスケットボールも経験させていく。

ねらい①で試合の前半がスマイルボール、後半がバスケットボールとし、使うボールを変えて試合を行っていく。ねらい②では、チーム同士で話し合って使用するボールを決めていくこととする。

(2) バスケットボールの楽しさや喜びを味わうためのかかわり

①作戦を選んでゲームを楽しむ

作戦カードを使用しながら、シュートにつなげるためにどうやって攻めるかを話し合いながら学習を進めていく。チームごとに自由に考える中で、特徴に合っているものや役割が明確なものを取り上げ称賛しながら共有していきたい。ねらい①からよい動き方や攻め方を選べる作戦の例として掲示物に書き溜めていく。ねらい②では作戦の例から自分たちのチームに合ったものを選んだり、さらに動きを書き加えたりしてゲームを行えるようにすることでボール運動の楽しさや喜びを味わえるようにしていきたい。

※予想される作戦の例示については別紙参照

②ペアチームの設定

本学級は28名いるので、1チーム7人の4チームを作る。ゲームの人数は3人なので7人を3人チームと4人チームに分け、ペアチームとして扱っていく。ペアチームでつながる運動を行ったり、勝ち点を共有したりすることで、試合をしていないときにペアチームの友達のよい動きを見つけて応援したり、アドバイスしたりするなど活発に伝え合う姿を期待したい。

チームについて技能面や思考面、コミュニケーション力や意欲面などを加味して決めるが、戦力に偏りが生まれた場合など、7人チーム内でのメンバー変更は柔軟に対応していく。

4 学習のねらい

- ゲームの行い方を知り、シュート・パス・キャッチ・ドリブルなどのボール操作とボールを持たないときの動きを身に付けてゲームを行うことができるようにする。【知識及び技能】
- 自己やチームの特徴に応じた簡単な作戦を選んだり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりすることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ルールを守り、仲間の考えや取組を認めたり、勝敗を受け入れたりしてバスケットボールゲームに積極的に取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

5 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○簡易化されたゲームで攻守が入り交じった攻防をするためのボール操作とボールを持たないときの動きができる。	○ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりすることができる。	○運動に積極的に取り組み、仲間の考えや取組を認めたりすることができる。 ○ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。
学習活動に即した評価規準	①得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートしている。 ②フリーの味方にパスを出したり、出されたパスをとったりすることができる。	①自分や友達の動き方や攻め方について気付いたことを伝えている。 ②自分たちのチームに合った攻め方を知るとともに、簡単な作戦を選んでいる。	①バスケットボールに進んで取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ③用具の準備・片付けで分担された役割を果たそうとしている。

6 学習過程と評価計画

	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
0 ↓ 45	オリエンテーション	つながる運動 基本的な知識・技能の習得につながる運動					
		ねらい① 簡単なルールで試合を楽しむ (総当たり戦)					ねらい② チームに合った簡単な作戦 を選んで試合を楽しむ (対抗戦)
		振り返り					まとめ
知・技			①	②		①	②
思・判・表			①		①	②	
主体的	③	①・②		②	②		②

7 学習活動と支援 (本時6 / 7)

	学習活動	教師の指導と支援 (○)・評価 (◇)
1	<p>1 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の道すじを知り、学習の見通しをもつ。 ○安全やマナーについて理解し、運動の仕方を知る。 ○学習カードの使い方や友達との関わり方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートから本単元への学級の思いを知る。 ・学習カードの使い方を知る ・チーム編成 7人×4チーム 1チームは男女混合3または4人チームに分かれる。 ○ルールやセルフジャッジの注意点を確認する。 ○「シュート」「パス」「ドリブル」の基本的な知識を知る。 ○用具の準備や使い方、片付け方、安全について知る。 ◇用具の準備・片付けを分担された役割を果たそうとしている。 <p style="text-align: right;">【主体的に学習に取り組む態度③】</p>	
2 . 3 . 4	<p>1 学習の場づくりをして、準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ストレッチ ○ドリブル練習 (体育館2周) <p>2 つながる運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ラン&シュート練習 <ul style="list-style-type: none"> ・走りこんでパスをもらってシュート ○2対1 <ul style="list-style-type: none"> ・数的優位な状況での得点につなげる動き 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームで協力して行うように声をかける。 ◇バスケットボールに進んで取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度①】 ○左右どちらでもドリブルすることやバウンドの高さ、目線を意識して行うとよいことを伝える。 ○パスは相手の動く方向 (少し前方) に出すとよいことを伝える。 ○ゴールに向けてふわりとした山なりのシュートをするよう声をかける。 ○パスを受けてスムーズにシュートしている子どもを称賛する。 ○斜めからシュートをするときは、バックボードを使ってシュートするよう声をかける。 ○状況判断が難しい子どもには一緒に動き方を確認しながら動き方が身に付くようにする。
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">簡単なルールで試合を楽しむ (総当たり戦)</p> <p>3 今日のめあてと学習の進め方を確認する。 《予想されるめあての例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールがもらえるスペースに動く。 ・ふわっとした山なりのシュートを打つ。 ・パスを出したらすぐにゴールに向かって走る。 ・チーム全員が得点できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の今日のめあてを確認するように声をかける。

4 1 試合目を行う。

前半… 3分
インターバル 10秒
後半… 3分

- A・B・C・Dの4チーム
- 各チーム①3人②4人のチーム

	1コート	2コート
①	A①対B①前半	C①対D①前半
②	A②対B②前半	C②対D②前半
③	A①対B①後半	C①対D①後半
④	A②対B②後半	C②対D②後半

5 ゲームを振り返る。(2分)

- チームで活躍したり、頑張ったりした友達を認め合う。

6 2 試合目を行う。

⑤	A①対B②前半	C①対D②前半
⑥	A②対B①前半	C②対D①前半
⑦	A①対B②後半	C①対D②後半
⑧	A②対B①後半	C②対D①後半

7 ゲームを振り返る。

- ・チームで活躍したり、頑張ったりした友達を認め合う。

- 前半と後半のメンバーを確認するように声をかける。
- 始めのあいさつやマナーを守るように声をかける。
- 動き方がわからない子どもには、パスをもらいやすい場所へ一緒に動いたり、空いているところを教えたりする。
- パスをもらう声を出している子どもを称賛する。
- ゴールに体を向けてシュートすることやパスを受けてから素早く打つとよいことを伝える。
- バウンズパスやチェストパスが有効であることを伝える。
- よい動きや気付きが見られたときは称賛し、全体に広める。
- 友達の動きや攻め方で気付いたことは、コート外からもアドバイスするように声をかける。
- ◇得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートしている。 【知識・技能①】
- ◇自分や友達の動き方や攻め方について気付いたことを伝えている。 【思考・判断・表現①】
- 次の試合に活かすためによかったことや課題を話し合うように助言する。
- 話し合いがうまくいかないチームに入り一緒に考える。
- スペースを見つけて走ったり、相手を取りやすいパスをしたりしている子どもを称賛する。
- ◇フリーの味方にパスを出したり、出されたパスを取ったりできる。 【知識・技能②】
- ◇ルールやマナーを守り、友達と助け合ってゲームをしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度②】
- 得点につながった動きに目を向け、話し合うよう声をかける。
- 得点につながった動きについて友達と話し合っている子を称賛する。

	<p>8 学習を振り返る。 ・学習カードに記入する。 頑張ったことや困ったことを発表する。</p> <p>9 後片付けをする。</p>	<p>○シュートにつながるよい攻め方をしていたチームを称賛し、作戦として掲示物を使って全体で共有する。</p> <p>○役割を理解し、率先して後片付けを行っている子を称賛する。 ◇用具の準備・片付けで分担された役割を果たそうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【主体的に学習に取り組む態度③】</p>
<p>5 ・ 6 本 時 ・ 7</p>	<p>1 学習の場作りをし、準備運動をする</p> <p>2 つながる運動 ○ラン&シュート練習 ・走りこんでパスをもらってシュート</p> <p>○2対1 ・数的優位な状況での得点につなげる動き</p> <p>3 今日のめあてと学習の進め方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> チームに合った簡単な作戦を選んでバスケットボールを楽しむ。(対抗戦) </div> <p>【チームの作戦の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦(1)が成功するように、大きい声でディフェンスを引き付けたところで○○さんにパスをしよう。 ・作戦(2)を成功させるために、ボールを奪ったら一斉に走って速攻の攻撃パターンを完成させよう。 <p>【個人のめあて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュートが打てる時は必ず打つ。 ・ボールのもらえるスペースに走る。 ・得点につながる取りやすいパスを出す。 <p>4 第1ゲームを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 前半…3分 インターバル 10秒 後半…3分 </div>	<p>○チームで協力して行うように声をかける。</p> <p>○打ちやすい場所でパスをもらったり、動いている子に合わせてパスを出したりするよう助言する。</p> <p>○ディフェンスの動きを見て素早くパスをもらえる場所に動き、時間をかけずにシュートしている子どもを称賛する。</p> <p>○両チームで決めたルールを確認し合うように声をかける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> チームに合った簡単な作戦を選んでバスケットボールを楽しむ。(対抗戦) </div> <p>○チームの選んだ作戦を確認し、個人のめあてを伝え合うよう声をかける。</p> <p>◇自分たちのチームに合った攻め方を知るとともに、簡単な作戦を選んでいる。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現②】</p> <p>○作戦を意識してよい動きをしているチームや子どもを称賛する。</p> <p>○友達の動きをコート外からアドバイスしている子どもを称賛する。</p>

	1コート	2コート
①	A①対B①前半	C①対D①前半
②	A②対B②前半	C②対D②前半
③	A①対B①後半	C①対D①後半
④	A②対B②後半	C②対D②後半

- 5 ゲームを振り返る。
・作戦について振り返る。

- 6 同じ相手と第2ゲームを行う。

	1コート	2コート
①	A①対B①前半	C①対D①前半
②	A②対B②前半	C②対D②前半
③	A①対B①後半	C①対D①後半
④	A②対B②後半	C②対D②後半

- 7 ゲームを振り返る。
・作戦について振り返る。

- 8 学習を振り返る。

- 9 後片付けをする。

- 10 学習のまとめをする。

- ・シュートやパスなどのボール操作を身に付けてゲームを行うことができたか。
- ・ボールを持たないときの動きを身に付けてゲームを行うことができたか。
- ・チームに合った簡単な作戦を選ぶことができたか。
- ・自分の考えたことを友達に伝えることができたか。
- ・ルールを守り、仲間の考えや取組を認めることができたか。
- ・勝敗を受け入れ、バスケットボールの学習に積極的に取り組むことができたか。

ま
と
め

◇自分や友だちの動き方や攻め方について気付いたことを伝えている。【思考・判断・表現①】

◇得点しやすい場所に移動しパスを受けてシュートしている。【知識・技能①】

○よかった点と課題となる点を伝え合い、チーム全体で把握し、新しい作戦を選ぶように声をかける。

○作戦が効果的だったか話し合うように声をかける。

○必要に応じて作戦の修正や変更を促す。

○動き方がわからない子には、チーム内からもアドバイスしてあげるよう声をかける。

◇ルールやマナーを守り、友達と助け合っって練習やゲームをしようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度②】

○次のプレーを意識して動いている子を称賛する。

◇バスケットボールに進んで取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度①】

◇フリーの味方にパスを出したり、出されたパスをとったりすることができる。

【知識・技能②】

○作戦カードを見ながら話し合ったり、カードに気付きを書き込んだりするよう促す。

○チーム内でよい動きをしていた子を認めるよう声をかける。

○得点につながるよい攻め方をしていたチームを称賛し、作戦として掲示物を使って全体で共有するようにする。

○協力して片付けを行うように声をかける。

◇用具の準備・片付けで分担された役割を果たそうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度③】